
困った私の異世界LIFE

浅木 恭也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

困った私の異世界LIFE

【Nコード】

N8637Z

【作者名】

浅木 恭也

【あらすじ】

こちらの世界で死亡した私は、瞬く間に新たな世界に生まれ落ちていた。困った事に前世の記憶を半端に残したまま…。幸いお貴族様に生まれたお蔭で不自由なく暮らしているけれど、やっぱり違和感が拭えません。そんな不器用な私の異世界LIFE。

1 - 1 . 回想

初めての記憶はやわらかに笑う母の笑顔。

屋敷の中を探し回って見つけた嬉しさに走り出す。

見つけたー！。

『母さまー！』

走り寄る私に気付いた母は微笑みながら此方を見ている。

『母さま、見つけたー！』

満面の笑顔でスカートに抱き付くと母の笑顔が少しゆれた。

『あのね、あのね』

何時ものように手を引いてよく聞こえるように顔を下げてくれる母に話しかけようと見上げると、困ったような青い瞳とぶつかる。

「フィリシア？」

『さつきお庭でね、』

先を続けようと話すうちに、母の笑顔がどんどん消えてゆく。それに気付かず私はさらに続けた。

「フィリシアー！」

肩を揺すられきよとんと見返すと真っ青になった母がいた。

回りのメイド達も張り詰めた様子で此方を見ている。

「フィリシア、お母さまの言っている事がわかる？」

震える声で聞く母にコクンと頷くと少し空気が和らいだ。

「では、お母さまと呼んでちょうだい」

私は何時ものように『母さま』と呼ぶ、けれどその呼び掛けに応える代わりに母は小さく悲鳴を上げた。

メイド達は慌てて父を呼びに廊下を駆けて行く。

幼い私はただ何が起こっているのか解らずにそこに立って泣いていた。

『母さま、母さま』！

繰り返す言葉に応えてくれるはずの声は聞こえなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8637z/>

困った私の異世界LIFE

2011年12月27日04時01分発行